

News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松學舎大学においても、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

平成30年度1号（通巻第5号）

Contents

- ◆「学生の実態・満足度調査」の結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆「学生による授業アンケート」の結果から・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◆二松學舎憲章・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

◆「学生の実態・満足度調査」の結果概要

平成30（2018）年1月～2月にかけて、本学の1年次生、3年次生を対象として、学生の実態・満足度調査を実施しました。

調査は、大学生活全般に関する大項目10の設問における5段階等の選択回答（例：「頻繁にした」～「全くしなかった」）と3項目の自由記述で答えてもらいました。

▶本調査の実施目的

- ①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。
- ②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

調査回答数は、下記のようになります。本調査は、同様の設問アンケートを行っている他大学（大学IRコンソーシアム51大学平均）を比較対象（以下、ベンチマークと表記）にアンケート分析を行った結果となっています。

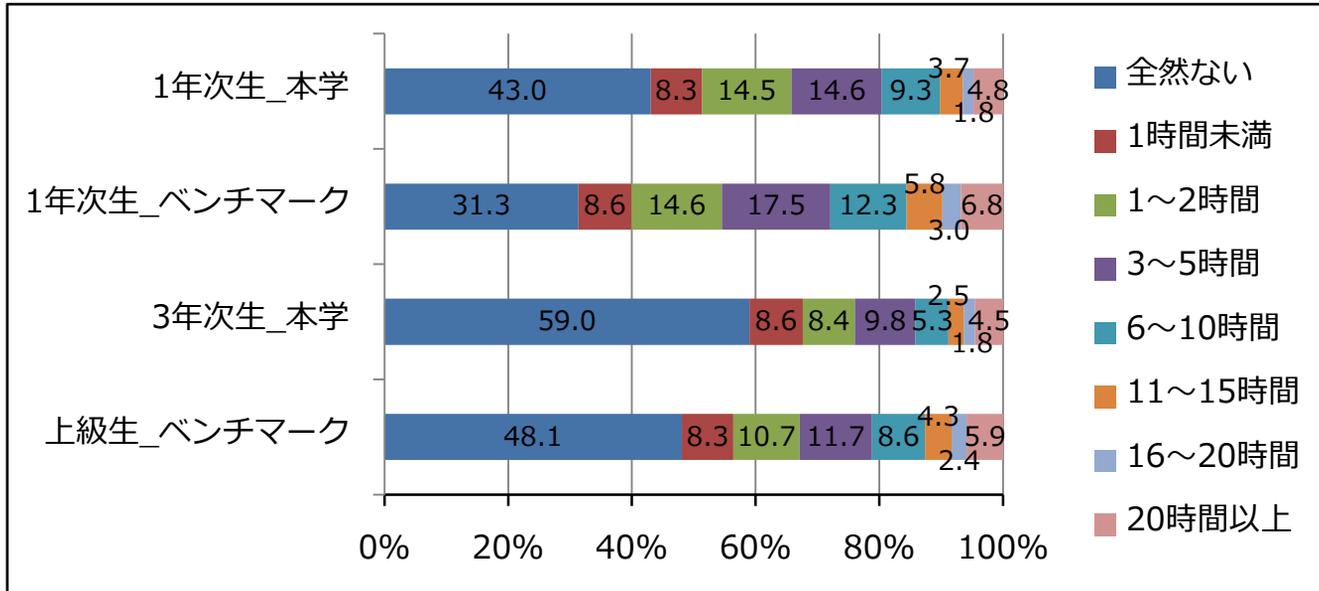
▼回答数

	文学部			国際政治経済学部	その他	合計
	国文学科	中国文学科	都市文化デザイン学科	国際政治経済学科		
全体 [人]	482	195	44	335	11	1067
1年 [人]	226	86	44	207	9	572
3年 [人]	256	109	—	128	2	495

●本学学生の特徴

▶都心の大学として拠点となるキャンパスが狭隘なことから、ベンチマークに比べ、部活・サークルに参加する割合が小さい。1年次生から授業内でのグループワークや各種課外活動等に取り組み、部活・サークル活動等で養われる対人関係能力を補う必要があると考えられる。

▼この1年間で、次の活動に1週間あたりどの程度の時間を費やしましたか。〔部活・サークルに参加する。〕



(値は%)

▶学生生活の充実度は、3年次生の充実度がベンチマークを上回り、前年度に比べ増加している一方、1年次生の充実度はベンチマークを下回り、前年を下回る結果となった。別途行った相関分析では、3年次生でゼミナールでの達成感や専門的な授業を受けることによる好感度が高かったことを踏まえると、1年次生は初年次教育や一般教養段階を受ける過程での充実度にばらつきが出ている。

	充実している	まあまあ充実している	充実 (充実している+ まあまあ充実している)	あまり充実していない	充実していない
1年次生 本学	22.1	58.8	80.9 [-3.1]	13.5	5.6
1年次生 ベンチマーク	29.0	55.4	84.4	12.1	3.6
3年次生 本学	21.7	64.0	85.7 [+3.3]	13.2	1.0
上級生 ベンチマーク	30.4	54.4	84.8	11.5	3.7

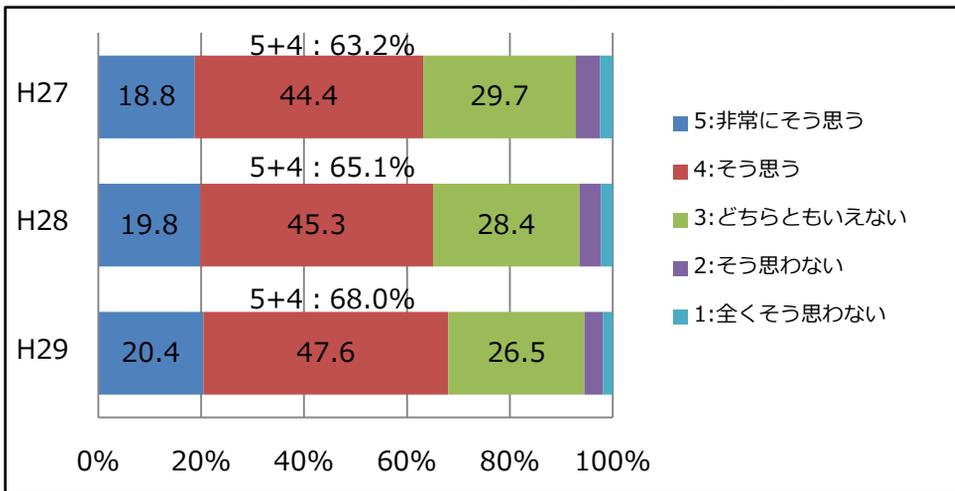
[] 内前年度調査比

(値は%)

◆「学生による授業アンケート」の結果から

▶学生による授業アンケートは、各期に1回、ゼミナール・演習科目・少人数科目を除く全学科科目を対象に、授業の向上及び改善を図るために実施されている。大項目27の設問における選択回答と2項目の自由記述で構成されている。授業の内容理解度等に関する結果は、下記のとおり。授業の内容を理解できたと思う学生の割合が年々増加傾向にある。本学の授業改善の取組みが着実に成果を上げているとみることができる。

▼全体として、授業の内容を理解することができたと思いますか。



年度	平均値
H27	3.72
H28	3.76
H29	3.81

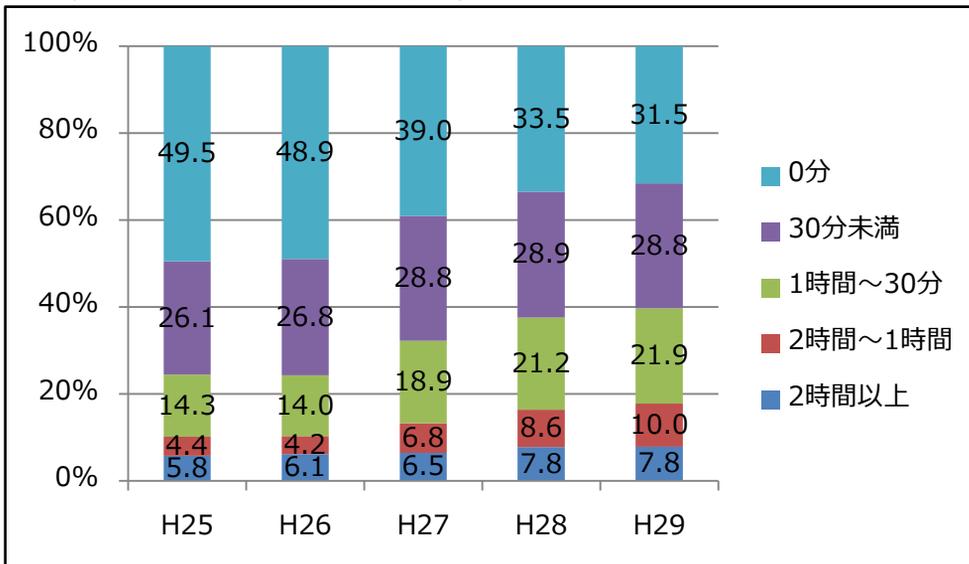
▲回答を数値化したもの。1～5で算出され、5に近づくほど良い。

▶また、平成25年から平成29年の授業外学習時間の結果を比較する※1と、この5年間の間に全学科において「0分」との回答割合が18%減少している。一般に課外学習時間の増加を学修成果の客観指標と捉える事ができる※2ことから、こうした面からも本学の学修成果が上がっていることが確認できる。

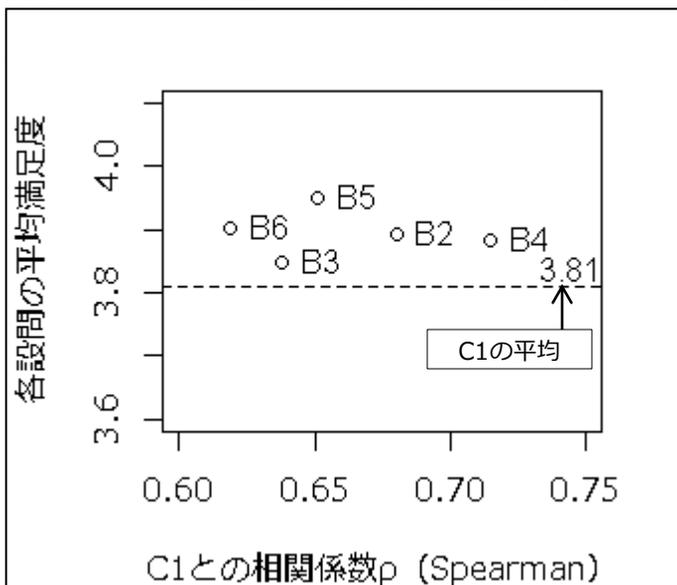
※1：学生による授業アンケート質問票の文章は、平成27年調査時に変更（「授業にはどの程度予習・復習をして臨みましたか。」→「あなたは1回の授業に対し、平均してどの程度予習・復習・関連文献の読書などの授業時間外の学習をしましたか。」）しているため、「0分」を基準に分析。

※2：国立教育政策研究所調査より「日本経済新聞平成28年5月30日朝刊」

▼授業外学習時間の年度推移（全学科）



▶下記の図はC1の設問とB2・B3・B4・B5・B6の設問との相関係数を横軸にとり、それぞれの設問の点数を縦軸にとったもので、相関の高い（右上に行くほど）該当の設問内容を好評価して「授業の内容を理解することができた」と答えているとみることができる。このうち特に相関度が高いのが、「授業の内容理解度と授業方法や内容に関する教員の工夫」で、本学教員の更なる授業改善への取組みが授業内容の理解向上につながる可能性がある。



【設問内容】

C1：全体として、授業の内容を理解することができたと思いますか。

B2：この授業はシラバス（授業計画や時間数）に沿って行われたと思いますか。

B3：教員は学生に質問や発言の機会を与えるなど、授業への参加を促したと思いますか。

B4：教員は学生が興味や関心を持つよう、授業方法や内容に工夫をしていたと思いますか。

B5：教員は学生の人格やプライバシーを配慮していたと思いますか。

B6：教員は学生の私語を注意するなど、授業環境の維持に配慮したと思いますか。

▶以上の結果より、教員の授業への工夫が学生の授業に対する充実度や理解度、学習時間の増加につながっていると考えられる。今後は、引き続き授業内で、グループワーク・発表、学生同士の議論、定期的な小テストやレポート、物事を調べる学習をいっそう増やしていき、対人関係能力の育成に努めていきたいと考えている。

【二松學舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松學舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp